

痤瘡および肥厚性瘢痕に対する 柴苓湯の臨床効果

永峯医院 院長 永峯 由紀子

キーワード

- 痤瘡
- 柴苓湯
- 白朮

痤瘡およびその瘢痕に対しては、外用薬、内服薬などの薬物療法その他、洗顔指導やピーリング、光レーザー治療などの外的治療などが多岐にわたって行われているのが現状である。しかし、これらの外的治療に柴苓湯内服を組み合わせることで、より良好な治療成績を得ることが可能である。

はじめに

痤瘡患者の悩みは主に、① でき続ける痤瘡、② 瘢痕となった部分の肥厚や凹凸、③ 炎症を繰り返した部分の色素沈着の3つに分類できる。

当院では洗顔指導やピーリング、光レーザー治療などの外的アプローチ単独による治療よりも、柴苓湯内服と組み合わせることにより、より良好な治療成績を認めている。今回、その中の1例を報告する。

症例

30歳女性(会社員) 痤瘡および痤瘡痕

現病歴：思春期頃より顔面および下顎部に痤瘡が出現し炎症を繰り返していた。赤色丘疹と面皰について近医にて抗生剤の内服と外用を数年間繰り返すも軽快しなかった。民間療法なども試みたが改善しないため2004年8月に当院受診となった。

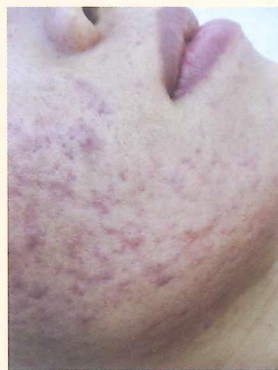


写真1



写真3



写真5



写真7



写真2



写真4



写真6



写真8

現症：全顔面と下顎部に多数の赤色丘疹、膿疱、面皰を認めた(写真 1、2)。

経過：初診時からピーリング施行し、同時に抗生剤の内服および外用薬を処方した。以後ピーリングをほぼ3週間毎に施行し、2005年4月には赤色丘疹の改善をみている(写真 3、4)。

ピーリングだけでは瘢痕部分の凹凸などに対応できないので、光レーザー(ブロードバンド・フラッシュランプ併用バイポーラ RF 波長 580～980nm)治療を1～2ヵ月毎に施行することとなった。光レーザー治療開始1ヵ月後には毛穴の縮小および瘢痕部凹凸の改善がみられている(写真 5、6)。

同治療の経過中、非常に軽快するとき(写真 7、8)と、ストレスや月経前に悪化するとき(写真 9)とを繰り返しながら、約1年後には著明な改善をみた(写真 10)。

光レーザー治療の頻度を下げ経過をみたが、本人が最も気にしていた赤色丘疹が徐々に平坦化し、色素沈着が改善、毛穴も緩やかに縮小していった。

瘢痕部分の皮下にある硬結や凹凸感を改善する目的で2005年12月よりクラシエ柴苓湯エキス細粒(KB-114 8.1g/日 分2食後)を処方した。

柴苓湯服用開始3ヵ月後には明らかな毛穴の縮小、凹凸感の減少がみられた(写真 11)。服用開始4ヵ月後にはさらに改善し、新たな痤瘡が出現しなくなってきた(写真 12、13)。

考察

柴苓湯は12の生薬からなる漢方薬で、「内因性ステロイドホルモン誘導作用」、「水分調整作用」、「線維芽細胞増殖抑制作用」などの薬理作用を有している。

今回の症例をはじめとする難治性の痤瘡および痤瘡による肥厚性瘢痕に対し、柴苓湯の線維芽細胞増

殖抑制作用等の抗炎症作用が働き、良好な治療成績が得られたものと考えられる。

また、柴苓湯の水分調節作用とは西洋医学的な利尿作用とは異なり、水分が不足している場合には逆に水分を留めるように働く。柴苓湯の構成生薬である朮については、白朮の場合、脱水状態では水分保持に働くという報告がある。大人の(女性の)痤瘡には肌の乾燥も一因と考えられるため、白朮を使用しているクラシエ柴苓湯を処方することにより、肌の乾燥に対して保湿に働いたものと思われる。

さらに、ストレスにより肌状態が悪化するケースは非常に多いが、白朮と人參の配合によりストレスに対する抵抗力を高めたとも考えられる。これらの生薬は消化管の働きを改善する作用もあり、消化管機能を整えることにより肌の状態も改善されるものと考えられる。

まとめ

難治性の痤瘡および瘢痕について、抗生剤の内服および外用と合わせて洗顔指導やピーリング、光レーザー治療などの従来の治療に柴苓湯内服を併用することによって、より良好な治療成績を得られた。



写真 12



写真 9



写真 10



写真 11



写真 13